

はじめに～『星の大地』って知ってますか？

『星の大地』 1～3、作：冨木忍 挿絵：飯田晴子 出版：角川スニーカー文庫
書誌事項は以下のとおり

書名	初版発行年月日	ISBN
星の大地 1	1993年 7月 1日	4-04-413803-6
星の大地 2	1993年 9月 1日	4-04-413804-4
星の大地 3	1993年 12月 1日	4-04-413805-2

このたびは、こんな人を殴れそうなほど分厚く、かつ文字だらけの本を手にお取りいただきまして、ありがとうございます。

この『月の裏側』は、軒しのぶの『星の大地』作品の総集編でございます。これまで発行した本四冊に掲載した作品と、よそさまの本に書かせていただいた作品をまとめて再録し、かつ書き下ろしを書かせていただきました。

さて、原作の『星の大地』でございますが、「まだ原作を読んでない」という方は、この先**1ページたいとも開けないで**、ネット通販なり新古書店なりに行ってこられることをお勧めします。何しろ二十年近く前のライトノベルですので、もう絶版になっていますが、最近ではインターネットという便利な代物がございます。中古本でなら、かなりの確率で入手可能です。(もう読んでるよ、という方は次のページへどうぞ)

全3冊、1冊200ページ強、文体も平易ですので、『銀河英雄伝説』の原作を読めた方なら、1日あれば読了できます。できますが……心して読んで下さい。1、2巻の明るいノリで、舐めたまま3巻にいくと、どん底に突き落とされることうけあいです。1巻の紹介文「コミカル新ファンタジー、痛快娯楽活劇」信じてはいけません。発行当時、あまりの凄まじい結末に、阿鼻叫喚、賛否両論を巻き起こした、ある意味、伝説のライトノベルです。私は、この凄まじい結末ゆえにこの作品を評価していますが、受けつけられない人はまったく受けつけられない、人を選ぶ本であることは確かです。

ネタバレにならない程度に冒頭のあらすじを書かせていただきますと……

「砂漠を隔てて対峙する大国レーンドラとユハリシュ。大陸制覇を求める二国の戦いは長く続いていた。

予見能力者であるレーンドラ王女サウラに仕える侍女のアゼルは、王女の身に立て続けに起こった出来事にただ驚くばかりだった。突然の自害、秘術を尽くした蘇生。しかしよみがえった王女は清楚で優しい聖女様から、口が悪くて手も早い勝気で傲慢不遜なわがまま姫に変貌し、その上、予見の力を失い、自害した理由もわからない、というのだ。

自害した理由の唯一の手がかり、サウラの記憶に残る謎の男を捜すため、アゼルとサウラはレーンドラを出奔したのだが……」(1巻のカバー裏より。一部改訂)

まあ、これだけ読んででも何の意味もないです。それでは原作をどうぞ。

さて、原作を読んでこられましたか？ 大変、お疲れさまでした。受けつけられなかった、落ち込んだ、鬱になった、人間不信になった、どうしてくれる、という方、誠にすみませんでした。この本で気を取り直していただくことができればよいのですが。

この原作を、主人公のアゼルやサウラ、マリクたちから見た『星の大地』という物語の月の表側、とするなら、この本は、いわば月の裏側を書いたものです。ずばりいいです。この本の主人公は、原作では敵役兼裏の主役（だと思ふ）のレーンドラ宰相ザヴィアです。

頭脳明晰、冷静沈着、冷徹非情、ついでに容姿端麗。とにかく手段は選ばないわ、凄腕のマキャベリストだわ、原作では最後の大詰め、十章3に来るまでとことん敵役を張っている彼ですが、実は……というのは、もうご存じかと思ひます。この彼から見た『星の大地』という物語はどういう物語なのか、という本でございます。

それだけで、これほどの分量を書いたのか、私。原作より分量多くないか……いや、十代から二十代という主人公達とは違って、この人三十三歳だし、原作でも暗い過去背負ってるし、過去からまじめに追っていったら、これほどの分量になっちゃったんですよ。あ、でも、かなり私の独断と偏見と、書いているうちに勝手に思い込んだ裏設定もオリジナル色も入っています。すみません。

ただ、原作を読んでこの人にはまった、という方（敵役なのに意外と多い。キャラクター投票やると主人公達を押さえてベスト1を取ったりしていた。無理もないが）には、自信を持ってお勧めします。何しろ彼は、原作では最期の場面以外、ほとんど心理描写、そのとき何を思って何を考えていたかの描写がない人なんですよ。まあ、この人が何を考えているかわかったら、原作の裏がほとんどばれてしまうので、作品構成上無理もないのですが、でもはまった者としてはもうちょっと知りたいですよ。マリクとの関係だって、二十年前の国外追放事件だって。もちろん、これだけ書いたくらいですから、私もこの人にはまっています。十数年ぶりに原作読んでもまたはまって、書き下ろしを書いてしまったから、重症です。これは一生ものですね。

それでは、レーンドラの切れ者宰相ザヴィア、そして災厄の到来を知ってしまった天才科学者の息子フィディアスの『星の大地』の物語をお楽しみ下さい。主要部分の作中年代順に並べましたので、彼の一生を追っていけるかと思ひます。そして、読み終わった後、原作のあの結末が、単に全てが無駄だった、だけではない、と思えるようになることを願ひます。

2012年12月

軒しのぶ 拝